

New

ほっこり通信 No.1

2022年新春号

一社) 佐賀県公認心理師協会ニューズレター

編集：事業広報委員会

2021年6月に新体制となった佐賀県公認心理師協会。佐賀県臨床心理士会のときに発行されていた「ほっこり通信」がしばらくお休みしていましたが、このたび復活しました！ホームページなど様々なコンテンツがあるなかで、あえて再び紙面を通して会員の皆様へ情報をお届けしていきたいと思ひます。



佐賀県公認心理心理師協会新体制

2021年6月に開催された総会で通算11年（平成22年（2010）5月から。当時は3年任期で3期（9年）。その後法人化し、新体制で1期（2年））本協会の会長を務めてくださった高尾先生が引退され、徳永剛志新会長が任命されました。

特集：前会長×新会長 対談

長年佐賀県の心理臨床をけん引してくださった前会長高尾兼利先生と、今回新会長に就任された徳永剛志先生にご対談いただき、お二人それぞれの想いをお聞きしました。（以下、高尾先生=高、徳永先生=徳、インタビュアー=イ、と表記します。）

【これまでの歴史】

イ<まずは、高尾前会長、長年、佐賀県臨床心理士会そして新生佐賀県公認心理師協会の発足までの会長をお勤めいただき、ありがとうございました。会長になられた当初に何か託されたことなどあったのでしょうか>

高「特段これをとすることはなかったけれど、心理職の国家資格化は命題でした。高橋さんが全国の代議員として活躍しながら、日精協トップの鮫島先生と臨士会トップの村瀬先生を結び付けて、そこから大きく流れが変わっていきましたね」

イ<まるで明治維新のようでしたね>

高「薩長同盟みたいだった。」

徳「佐賀はうまくいきましたよね。」

高「全国の先陣を切るような感じでね。政治家とのつながりも頑張って、積極的に動いていた。あのときにつくづく思ったね、法律は国会でできるんだなあ、って。」

徳「心理屋さんが政治に対して無頓着すぎたなあ、って思いましたね」

高「理想だけで動くようなね。でもそんなんじゃないからね。だからある意味では 庶民としては悪いことばかりを政治に対して意識するけれど、実際はそればかりじゃなく、しっかりとした理念・団体があって、政治家の人に応援してもらおう、そういうのを勉強しながらやっていったかんじ。」

徳「世の中を知らなかったなあ、と思いますね。」

高「心理って、かなり社会的なニーズは高いのに、活躍の場がそんなに、、、」

イ<すきま産業ばかり>

高「そうそう（笑）言い得て妙です。それに対してなんか、社会的に働きかけて、制度を作ろう、とはならない。」

イ<社会、っていう視点が弱い>

高「弱い。けど、それで、良い、とも考えられる。ギラギラしてやると、なんか、らしくないな、と。」

徳「心理屋って、欲がないよね」

高「その点、唯一スクールカウンセラー（以下、SC）、あれはよくやったなとつくづく思う。1時間5000円っていう。」

徳「僕は、SC始まったときに、ぜひやりたい、と思いましたね。」

イ<どうしてですか？>

徳「開拓の余地があると思った。これ、やれるぞ、と思った。」

イ<私、ちょっと意外なんですけど…先生の開拓精神と言うかチャレンジャーみたいのところ、最近気づき始めました>

徳「たぶん、僕が心理の世界を選んだのは、人がやっていないことをやってみたい、みたいな、好奇心みないなものがあった。」

高「きたぞー（笑）」

徳「病院臨床やってるときに、これから学校に心理がはいるらしいぞ、ってなったときに、ぜひやってみたい、と思った。無茶な話やけど。当時、そんな知識も経験もないのに。たぶん佐賀県のSC始まったときに最初に行ったんですよ」

イ<そのときお二人はすでに顔見知りだったんですか？>

高「いや、出会ったのは高橋さんが会長になったころかな。高橋さんが会長になって、皆さんがコミットしてきて。徳さんが副会長になったのが大きかったね。災害支援、いろいろあったな。3.11、そのあと熊本地震。それで徳さん、やる気出したよね。」

徳「いやいやいやいや（笑） 東日本大震災の、あの支援に応えるには、あれはもう、すごい高ストレス状態で。当時僕は学校臨床の理事で。行く前から、県とのやり取り、準備がすごい大変だった。」

高「徳さんにとっても、だけど、県士会にとっても世の中にとっても、初めての体験だったよね」

徳「準備の段階で大変だった。で、行く、ってなったときもう知識も経験もないわけで。前の情報ないから。まあ神戸の震災があったけど、あれの教訓みたいなものまだ広まってないのに。で、行く前って、もしかすると避難所に宿泊かも、という状況で。当時SCコーディネーターの伊藤紀子さんに『チーム6人、誰が最初に行くよ？』って聞いたら『そりゃ先生でしょ』って言われて（笑）」

イ<あっさり（笑）>

高「それで一等に行って」

徳「一番に行って。もう、サバイバルやね。ちょっとテンパった状況で行って。あれは今までの人生のなかで一番にストレスを感じた。」

高「病気せんやった？」

徳「行ったら、他の臨床心理士会の人たちと雑魚寝の修学旅行状態。避難所でなかったのは幸いだけど。国民宿舎で。それに、風景が全然……。修復もなんもない状況で。道路は通れるようになってたんだけど、瓦礫もそのまま。津波ってこんなすごいのか？！って。テレビで見るのと生で見ると全然迫力が大違いで。」

イ<こちらトラウマになりますね>

徳「なるなるなる。帰ってきてから、うつになったもん。」

高「あれで、連携っていうかね」

徳「そう。あれで思ったのは、自分がこんな状況にあるのは、もともと自分に知識がなく経験がないのとそれと、横の連携、がなかったからだ、ということに、あとから気付いて。」

高「やっぱね、それは徳さんの、経験に学ぶ、っていうね。それを次に活用するっていう、チャレンジャーの気質ね。」

徳「そのときに、九州で幸いだったのが九臨心（注：九州臨床心理学会）。」

高「九臨心って、いろんな意味があるねえ。」

徳「ぼくはそれまで九臨心って、馬鹿にしたところがあったの。局所的な学会で、ドメスティックな、悪いイメージがあった。でもそのときに、もし、九州で災害があったときに、九州はブロックで動かないといけないよね、どうすればいいのか、と思ったときに、九臨心の会長会を使えばいいんだ、って思いついたの。九臨心って、学会が終わったあ

と、各県の会長が集まって、会長会が開かれてた。そこで災害があったときに九州沖縄の臨士会が連携してやっていきたいと思いますよ、と。そのために、災害担当者、会長が研修しましょうよ、って提案したわけ。」

高「そこまでやったよね。」

イ<それはだれが？>

徳「ぼくがやったの。ぼくが会長会に出させてください、って言って」

高「当時会長だった僕が、コーディネートして。」

イ<すごい>

徳「それで、話をしたら、それ良いでしょう！って話になって採用されて。どういう形でやっていくか、っていう、災害対策の『形』を作ったのが、ぼく。」

イ<めっちゃパイオニアじゃないですか>

徳「でもそんなことは誰も知らない（笑）」

イ<それは・・・そんな方が会長だなんて、すごく楽しみです、これからの佐賀県士会！>

【公認心理師と臨床心理士の同居世帯について】

高「国家資格化のときに、高橋さんは代議員として、僕は会長として、徳さんは副会長として、がんばってきた。でも、だんだん感じてきたのは、この辺だけやって、みんなが、どうなのかな、というのはずっと気になっていて。任せるとか、我関せず、とか、それがだんだんやっぱり、分離していくよね。だから研修会とかやっても来る人は固定化していく。それがね、一つの課題でしょう。それは求めても意味のないことなのか個人に任せられることなのか。会としてやっぱり会の研修会とか、そういうとりくみに参加できるようにしていくようにするとよいのか。」

徳「もしかすると、コロナによってオンライン研修が主流になって そのおかげで、今まで参加しなかった人も参加するようになってきたような流れもあると思います。…ぼくは嫌なんですけどねオンライン。」

イ<そうですね、子育て世代とか、子どもがいてもオンラインだと参加できるっていう>

高「距離が遠い、とかでも参加できる。集まりたい人、オンラインがよい人の両方をつないで、ハイブリット型にする。そこに県士会として金を投資していく！」

徳「研修の中身としても、公認心理師だけの資格を持った人に対して何ができるかということも課題。」

高「何年間かは混乱があるけれども、10年経てば落ち着いていくのでは、と思っている。常に10年先を見越して考えていくことが大事なんじゃないかな。一方で考えなきゃいけないと思うのは臨床心理士資格。今後どうなっていくのか、っていう。現実をどう見るか。理想はあってよい。ただ、現実をどう動かすか。一方で公認心理師資格が成熟していくわけです、臨床心理士はすごく成熟したものとして現れていて、公認心理師は赤ん坊として登場して、、、でも赤ん坊は成長するんですよ。」

徳「そのうち赤ん坊のほうが大きくなるんでしょう。」

高「そう、で、臨床心理士はだんだん年を取ってくる。そういうところをどう見越していくのか。やっぱり変わり目で。時間のながれを見越して、佐賀県公認心理師協会をどう運営していくか、っていう」

イ<現会長！>

徳「（高尾前）会長はやく戻ってきてくださいよー」

高「会員ですよ（笑）」

徳「先生が会長やってくれて、そのおかげでどれだけ会が順調にいったのかっていうのがわかる。先生が会長してくださいって、そのときの副会長だからこの役ができたんだ、ってわかる。」

【新会長に期待するところ】

イ<新会長に期待するところはどんなところですか>

高「公認心理師と臨床心理士のこともあるけれど…、心理士の『仕事の面白さ』を少しでも感じられるような何か、というか。僕が印象に残ってるのは、一丸さんが心理臨床の仕事ほど面白いものはないと思うよ、っていう言葉で。それはやはり好奇心だし。人の心はどうなって、いろんな考えがいろいろあるじゃないですか、それを自分の依拠する考えに基

づいて、人間の心はこういうことか、っていうことがわかっていく、っていうか。そういうことを若い人が実感できるような。ゴールはその辺にあると思うんです。」

徳「やっぱり臨床全般のことを」

高「なんていうのかな、給料のことも待遇のことも不満いっぱいあると思う。それはそれで解決せないかん。でもそういう仕事のなかで、**心理臨床**にしかない**味わい**とか、**楽しみ**があるだろう、って。そこをちゃんと意識できたり、**味わえる**、**そういう人間を作っていく**っていうか。」

徳「それをテーマにした研修会をつくらないかん。」

イ<はい！作りましょう。>

高「ぼくは、それがねえ、理想。グループをつくって、グループのなかで2月に一回とか、地域的に勉強するシステムをつくっていく。ある人をリーダーにする、事例検討をする、そして年に1回全グループが集まって学びあいをする、っていうのをつくりたい。」

徳「僕もそう思う。」

高「だって僕らはこれを勉強したから**いっちょ上がり**って**いうものではない**。毎月のように、**恒常的に検討**していく**なかで学んでいく**。別にコメンテーターは**必要ない**、**そういう意識も**ってもらわんと。」

イ<自分たちで。>

高「自分たちは、**良いところ**いっぱい**持ってる**んです。」

徳「性犯罪者もグループで学びあいをやっている。当事者から学ぶことが**すごい多い**。それが本を読むよりも**すごい勉強**になる。偉い先生の話聞くよりも。ああ、**そういうこと**なんだ**っていう**。偉い先生から話をきくのも**大事**だけど、**横の関係**で**学んでいく**、**ていうことは**すごい**大事な**ことだ**と思う**。」

高「そういうのが**心理臨床**の**学び**なんだから。〔仲間〕ですよ。」

イ<これから、**新会長は、『臨床大国、佐賀』**>

徳「いいねえいいねえ！」

イ<今までは政治的に動いたけれどここからは地を>

高「もう**国家資格**はできたから。ぼくはね、やっぱり、**横の関係**で**学びあう**って**いうのが大事**だと思う。ぼくは、徳さんを会長としてお願いしようと思ったのは・・・、僕は大学の給料を基本として暮らしているわけ。だから非常に甘いんですよ。甘いところがあるわけ。しかし、これから、この**心理臨床**だけで**糧を得る**、**そういうような人が会長**になら**ないかん**。これまでだいたい日本の**心理臨床**の**主導**だった人は**大学の人**だったわけ。」

イ<でも、徳永先生は、**心理臨床**で生きてきた、**っていう**>

高「そうそうそう」

イ<そういう人が会長になるって、全国的に見ても**珍しい**と思う>

高「そう、**新時代の会長**！」

イ<あ！また、『**新**』ですよ、**佐賀！開拓者**ですよ>

【**新会長の抱負**】

高「こうしたいんだ、**っていうのは**、徳さん、**どうですか**。」

徳「まずは、**臨床心理士**と**公認心理師**が同居している**っていう世帯**なので**まず**、**どちらにしろ**、**どう研修会を充実**させていくか、**っていうこと**。僕は、**研修会をベーシックな方**に移して**いきたい**なって**思ってる**。今までのような**臨床心理士会**の**研修**じゃなくて、**もうちょっとベーシックな方**に。」

高「**アセスメント**の**基本**とか」

徳「**そうそう**そう」

イ<基本ってこと？それは**公認心理師**のために？>

徳「**公認心理師**を対象に、**というところ**もあるし、**臨床心理士**も**忘れてるところ**もある。**災害対策**とか**自殺対策**とか**コロナ対策**とかこの**辺りの研修**を**しなければ**と思います。」

高「必要な研修、日常的な研修」

徳「偉い先生から教えてもらうんじゃなくて自分の興味テーマ一致しているなかで横の関係のなかでグループワークしながら学んでいくっていうような研修を開催できたら良いな、と。…実は、僕は、一番最初に臨床心理士会に入るときは、戸惑いがあった。自分みたいな経験も技量も低いのが入ったら、すごく自分が傷ついたり劣等感を感じたり嫌な思いをするんじゃないかというのがあったから。だから、そういうのじゃなくて、そういう感情をもつのは当然なことで、グループワークをしはじめたら『自分だけじゃないんだ』『他の人も同じように感じてたんだ』という共感性みたいなものが感じることができたら積極的になるんじゃないかな、と思って。」

高「そういう研修会！ 関心ある人が集まって、事例を、という。そこで得られるものは何か、っていう、そういうことを言わないといけないと思う。まず事例について考えて発表する、理解するっていうことが能力アップになっている。自分の意見があって、他の人の意見があって、比較検討する、それが力になる。それを説明しないとイケない人がいる、と思う。そんなこととして意味がないじゃない、偉い先生の話を取り入れて生かすっていうのが勉強だと思っている人がいると思う。案外、多数。」

徳「そう、多数。・・・ところで、公認心理師について、どう思ってる？」

イ<よくわかりません。何かしら相談経験のある人が一夜漬けで受検勉強して心理専門職の資格が取れたりする、その現実に関心がある中で折り返しをつけることができていません。>

高「選ぶのは、相手（クライアント）。意味があるのは国家資格、ということ。資格って何だろうって思う」

徳「自分の立場からすると、臨床心理士と公認心理師が同居している世帯なわけで。でも臨床心理士が、同居することに対してどう考えているのか、っていうそのストーリー性をまだ把握できてないわけです。」

高「僕は今は臨床心理士はなくて、公認心理師だけ。それは、資格ってそういうもんだと思っている。資格に対する思い入れ、資格というのは、それを活用する人のためにあるものであって。活用する人がどういうふうに活用するかによって生まれていく。10年後をどう思うか、だな。」

徳「僕はあまり葛藤していない。そんなことどうでもいい。僕は、僕の技量があればいい。ぼくの技量にあってるのが臨床心理士であり公認心理師だからいい。でも資格に頼っている人、資格に価値観を持っている人、葛藤を持っている人を、会長としてどういうふうにニーズを求めてどうこたえていくかっていうことを僕はしなきゃいけないと思う。高尾先生がやってこられたような激動の時代じゃなくて、中の、内紛まではないけど、伊藤博文と大隈重信みたいな、そういう葛藤をどう処理していくか、っていう。」

高「そういうことを話し合うなかで、両資格の発展的なものにつながるようなものになれば良いと思う。だいたい何かを良くする原動力になるものは、こだわりがある人たちです。」

【最後に】

高「徳さんが、心理臨床で生きている、そういう人が会長なんだ、っていう。やっぱり10人くらいの集まりがいっぱいできて、事例検討して、っていう。」

イ<臨床大国、佐賀！>

徳「いいねえ。今日は来てよかった。会長として何ができるかなあと思ってたけど、いろいろ見えてきた！」

新役員紹介 自己紹介

これから2年間、協会内のお仕事をけん引して下さる先生方を紹介します。それぞれ、「①実は、〇〇が好き②抱負③所属委員の先生方」について紹介いたします。皆さんと共通の趣味などみつかるともかもしれませんね。身近に感じていただければと思います。



会長（兼産業組織委員長）徳永剛志

①実はネコが好き。昨年9月、自宅周辺をランニング中に生後2週間ほどの子猫が2匹捨てられているのを見つけてしまい迷った挙句、家で飼うことにしました。今は悪さばかりする中ネコになり、憎たらしい限りです。

②会長も産業組織委員長になるのも初めてですので、ご助力のほどよろしくお願いします

③産業組織委員：川原慶子先生と黒岩淑子先生



副会長（兼倫理委員長）岡嶋一郎

①実は、日曜大工（DIY）が好き。

②皆様が安心して心理の仕事をするためのお手伝いができたらと思います。

③倫理委員は非公表です。



副会長（兼事業広報委員長）細川美幸

①実は、着物好き。織りも染めも、もう、日本の美が詰まりすぎて悶絶してしまいます。着物を着て毎日仕事・生活をしたいです。着物仲間を増やしたいです♪

②会員の皆さんが「楽しい！」「佐賀って面白い♪」と思えるような事業を企画していきたいと思っています。

③事業広報：サンボン賀弥子先生、伊波清憲先生、柴田茜先生、高橋幸市先生



常務理事兼事務局 眞木理

①中野京子先生の著書。家と職場の休憩室に中野先生の本が30冊くらいあるでしょうか。『怖い絵』など西洋美術の内容が多いですが、シンプルな美術解説ではなく、歴史背景や画家の生い立ちなどを盛り込んでいて読みごたえがあります。ちなみに画像は、ルーブル美術館で直接見て衝撃を受けた、「ジェリコー作『メデューズ号の筏』」です。

②事務局ということで、理事の先生方や会員の皆様への情報提供や連絡調整をいたします。皆様のスムーズな情報共有に努めますが、何かと不手際もあると思いますので、いづらか大目に見ていただくと嬉しいです。



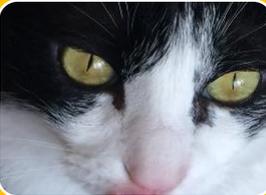
医療保健委員長 松島淳

- ①実はレゲエが好き（特にRickie-G推し。Rickieの伸びやかな美声でリラックス〜♪）
- ②微力ではありますが、「何か困ったときはとりあえず医療保健委員会に」と言ってもらえるような、会員の先生方をバックアップできるような役割を少しでもできればと思います。
- ③柴山旺子先生・松尾真樹先生・山下美和先生



学校臨床委員長 赤川 力

- ①実はアニメが大好き。アイコンでも使用しています王様ランキング、東京リベンジャーズなどにハマっております。面白いアニメがありましたら、ぜひ教えていただければ幸いです。
- ②佐賀県スクールカウンセラーの先生方のお役に立てるよう微力ながら尽力させていただきます。ご意見等ございましたら、是非ともお聞かせくださいますようお願い申し上げます。
- ③白石忠明先生、中山麻衣子先生、細川佳博先生、山本章先生



被害者支援委員長 早瀬恵

- ①実は・・・ねこ好き。見て触って嗅いで(!)癒されます。人に媚びないツンデレがたまりません♡今春「ねこ検定」受検予定。
- ②佐賀県内他機関との連携体制づくりのお手伝いできればと思っております。“つながる”ことでできる支援が増えることを願って。よろしくお願ひします。
- ③伊藤紀子先生（佐賀）、中島薫先生、古賀かな子先生、上田美樹先生



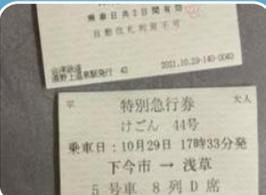
被害者支援委員長 森永陽子

- ①お酒を飲みながら漫才を見てゲラゲラ笑うこと。
- ②緊急の対応が求められるのでマンパワーが必要です。何も活動のない平和な年もありますが、続けて依頼が来ることもあります佐賀県のこころの健康を守るため、ご協力いただける会員の方、どしどし事務局にご連絡ください
- ③伊藤紀子先生・中島薫先生・古賀かな子先生・上田美樹先生



児童福祉委員長 藤瀬はるな

- ①実は...。革製品に目がありません。日本の伝統的なことにも興味があります。
- ②右も左も分からない状態で先生方にご教示いただくことばかりの毎日ですが、少しでも会員の先生方のお力になればと思っておりますので、2年間よろしくお願ひいたします。
- ③池田久剛先生、志波悠香先生、信國知恵先生、小副川恵先生



事業広報委員長（研修） 高橋幸市

- ①最近よくやっているのは「乗り鉄」です。いろんな風景を見るのが好きなんだと思います。視覚認知優位の特性のせいでしょう。それから、「金継ぎ」。漆を使う本格的なものではなく“なんちゃって金継ぎ”です。器が蘇るのがいいですよ。
- ②研修の継続実施体制と法人会計業務を軌道に乗せることに取り組みます。



倫理委員長 伊藤紀子

- ①「イベント参加」が好きです。大勢の人達と一緒に楽しみながら沢山のパワーを貰おうとワクワクします。コロナ禍の今では考えられませんが4万人規模のイベントにも参加したことがあります（笑）
- ②倫理について自分も改めて学びたいと思います。
- ③倫理委員は非公表です

事業と報告

2021年度佐賀県公認心理師協会の事業計画と報告を以下の通り行います。

報告	
医療保険	2022年3月21日に医療保健専門研修会「コロナ禍での医療現場における心理支援（仮題）」野村れいか先生（九州大学）を予定
学校臨床	1.SC研修会(年5回実施見込み) ① 2021年10月3日 児童福祉研修会と相乗りで、「紛争のある家庭のアセスメントと支援」田高 誠先生(神戸家庭裁判所) ② 2021年11月21日「学校現場と精神医療～児童思春期外来で起きていること～」富松眞之先生(友朋会嬉野温泉病院) ③ 2022年1月23日「緊急支援について」内野成美先生(長崎大学) ④ 2022年3月13日「子どもの表現を受け止める～プレイセラピーの視点から～」細川 美幸先生(西南学院大学) ⑤ 2022年3月13日「事例検討会(スクールカウンセリングにおける事例)」渡辺久子先生(元慶應義塾大学医学部) 2.SCスーパービジョン事業の継続(現在まで利用者なし) 3.委員会の開催 年4回開催 4.その他(佐賀県教育委員会との協議継続・全国会議の出席予定(中山SCコーディネーター出席)・メンター制度の継続(現在まで利用者なし)・SCの交流会継続検討(継続検討)・佐賀県SCへのアンケート実施)
被害者支援	2021年12月18日 被害者支援専門研修会「心理職が知っておきたい！被害者・加害者への支援」原健一先生(DV対策・予防センター九州)、井上俊明先生(福岡県性暴力加害者相談窓口)、山田幸子先生(さがセレニティクリニック)
児童福祉	2021年10月3日 日本臨床心理士会の講師派遣事業による児童福祉専門研修会「紛争のある家庭のアセスメントと支援」(田高 誠先生:神戸家庭裁判所家庭裁判所調査官) 2021年10月3日 委員会主催研修会第1回「佐賀県における児童福祉分野の心理支援活動」 2022年1月30日 委員会主催研修会第2回「事例検討会」 2022年3月6日 委員会主催研修会第3回「事例検討会」
産業組織	2021年11月6日に日本臨床心理士会の講師派遣事業による産業組織専門研修会「職場のメンタルヘルス支援！もし明日、依頼が来たら？～不調者支援から予防教育まで～」馬之段梨乃先生(ハピネス・アイ)
倫理	倫理案件は0件で、調査は行われなかった。 1. 倫理委員会を1回開催 2. 専門研修会「公認心理師の仕事術—倫理から考える—」(講師:高橋幸市先生:3月6日)開催予定。
事業広報	2021年5月16日 第1回基礎研修会 会員向けニューズレター「ほっこり通信」復刊

事務局からのお知らせ

会員の皆様へのお知らせ、お願い事です。2021年度の年会費の納入につきまして、ご協力をいただきありがとうございました。4月になり新しい年度になりましたら、2022年度分の納入についてもよろしくお願ひします。協会HPの会員個人ページで、年会費の納入状況の確認や領収書の発行ができます。また、当協会では、年会費の納入口座と、研修会参加費等の納入口座を会計管理上別にしてあります。納入に際してはお間違いのないようお願いいたします。

年会費の納入口座 佐賀銀行 大和町支店 普通 3064100

研修会参加費口座 佐賀銀行 大和町支店 普通 3064999

また、協会ホームページには、求人や研修の情報も随時掲載しております。最近では研修も、リモートや動画配信形式で受講できるものが多いです。研鑽を積みたい方、臨床心理士資格更新ポイントを狙いたい方など、ぜひご利用ください。

ホームページ URL <https://saga-acpp.jp/>